



最強退魔師が

TSして

淫鬼様に魅了敗北

しちゃおう八丁♡

原作：着こむ人

作画：倉塚りこ

最強退魔師が
TSと
淫鬼様に魅了敗北
しちゃおう八寸シ♥

原作：着こむ人 作画：倉塚りこ





最強退魔師が
 TSと
 淫鬼様に魅了敗北
 しちゃうお八寸♡

原作：着こむ人 作画：倉塚りこ



……んんん

たゆんっ



女性の乳房というのは
 こんなにも邪魔なのか…



はあ
 はあ



男には
ないはずのそれは
まさしく母性の
女性の象徴であった

そしてそれと同時に
今の僕にとつて
大きな足かせでもあった

僅かに歩くだけでも
ふるふる♡と揺れ動き
その存在を主張する

おまけに肩に負担が
常にかかる

すし...



これでは
生きて脱出するなど
到底不可能だな

さらに筋力、体力も
失われてしまった身体も相なり
少しでも走ろうものなら
必ず息切れしてしまう有様だ

よう...

ハア
ハア



——山奥深くの洞窟に住まう、淫鬼達の討伐

祖父の代から
長きにわたり追い続けてきた
高山の麓に巣食う淫鬼達

しかし、ついご当代の
筆頭退魔師の当主である
自分の調査により
奴らの根城を突き止めたのだ

これで淫鬼どもも終わりだ！
皆、行くぞ！！

そう言っつて退魔師の皆を率いて
淫鬼の住処である洞窟を襲撃した自分の姿…
今にして思えばなんと滑稽なことか

奴らは初めから…いや、
僕の調査の段階で
簡単に尻尾を握らせたのも
計算ずくだったのだろう

ぬっ

待ち伏せされた退魔師たちは皆、自分を含め全員が巨大な肉塊の妖に喰われてしまった



全裸で肉塊の化け物の尻穴から這い出し
粘液まみれになっていた僕の身体は――

どういふ術か影響かわからないが
少女のものになってしまっていた



奴の腹の中で目覚めた自分は
衣服も剣も全て失い……
無我夢中でもがき――
奴の尻穴から這い出た

『千年に一度の天才』
『一騎当千の無双の退魔師』

そう言われてた自分のプライドは
粉々に砕け散った



くっ…
破魔仙術…
穢身清浄の陣

はっ

…

……えっ？



膨らんだ胸に
雪のような白く細く
柔らかな肌

そして
その先にある乳首は
鮮やかな桜色に染まっていた

股間にあつたはずの
男性器はなくなっており
代わりにあるべき場所には
割れ目ができていた



今の自分は
一糸まとわぬ
妖艶な女の裸体を
晒し

自身への呪いを払う
初級の術すら扱うことが出来ない…
そして腕力も筋力も、武器もない

そして更に…この女の身体は
退魔師の力すら一切奪われて
しまっていたのだ

淫鬼の住処に迷い込んだ
哀れな少女にしか
過ぎないのだ

ねと お...

淫鬼の体液は
ニンゲンを強烈に発情させる
魔性の媚薬

どんな屈強な意志を持つ
人間であろうと
性交のことしか考えられない
獣へとなり果ててしまう
恐ろしいもの



どろり...

ぬちゅ♡



んっ...

く...クッ...

ばっ...



ピッ

ピッ

大きく膨らんだ双丘の先端
その桜色の乳首が
痛々しいほどに
勃起してしまっている



クッがっ...

ピッ
ピッ

何とか、浄化...

あうううううう...♡♡

くちゅり...

くちゅ

ちゅ



らっ...♡

あぁあア...

股間に生まれた
秘所の割れ目からは
まるで洪水のように
愛蜜が溢れ出し
肉付きのいい太ももを伝い
水たまりを作っている



あアア...♡♡

くそ...ぼくが...
こんな...

ぽた
ぽた

粘液によって強制的に
昂らされた僕の身体は
いつの間にか火照り
強烈に疼き始めていた

びる
びる

ジャリ...

ほお、さすがは
当代最強の退魔師と
謳われるだけのことはある

刃を奪われ、霊力を奪われ
穢れを知らぬ脆弱な女の身に
墜としてもなお抗うか

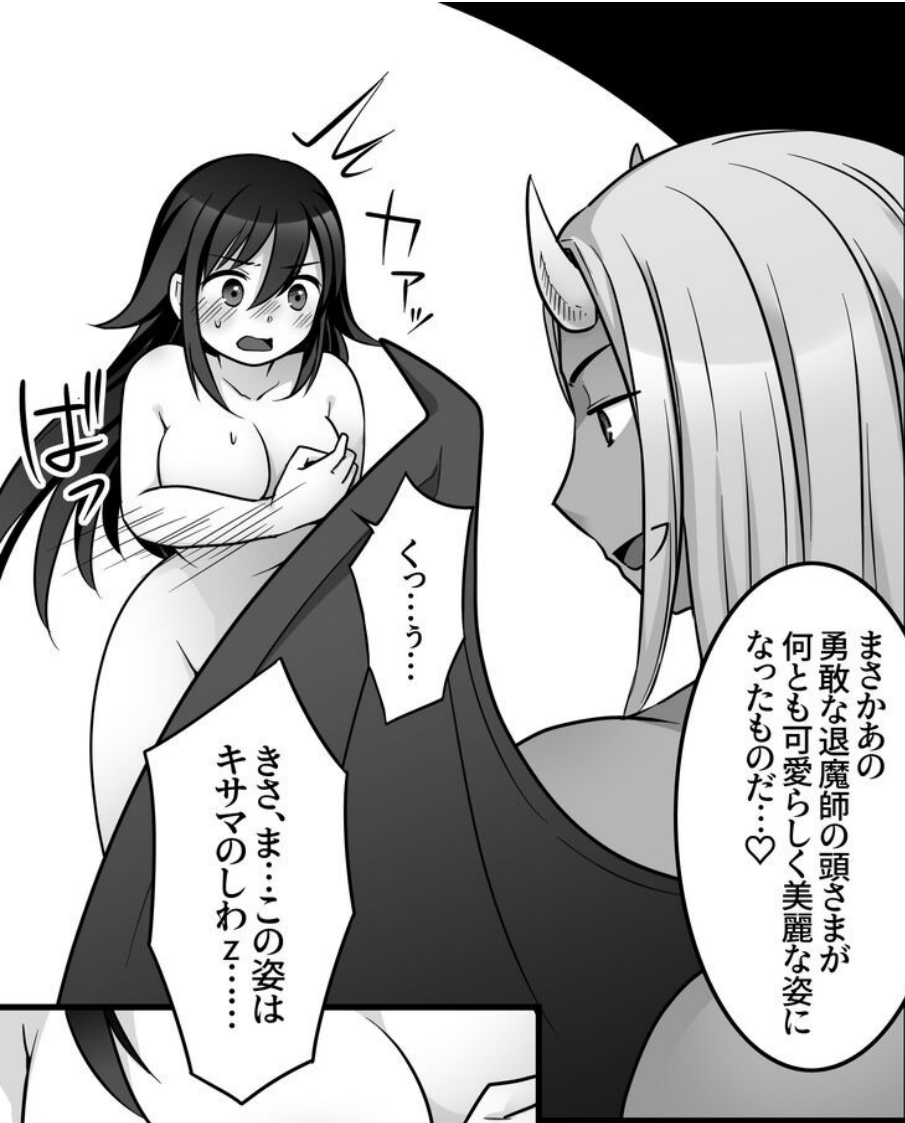
はっ

っっ!?

この雰囲気...!!

間違いない
コイツこそ淫鬼共の
首領だ

キッ



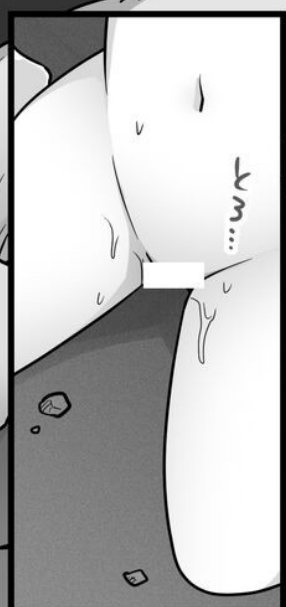
ははは

カアッ

くっ...

きさ、ま...この姿は
キサマのしわざ...

まさかあの
勇敢な退魔師の頭さまが
何とも可愛らしく美麗な姿に
なったものだ...♡



ぽんぽん

ふん...



じっ



にっ



スリッ

わん♡



ふん♡
ふん♡

ひゃああ♡♡♡♡♡

びゅん♡
びゅん♡
びゅん♡
びゅん♡



頭を垂れ
地に這い許しを乞えば
命だけは助けてやるぞ

お前にはもう
何の戦う力もない



もう無力で哀れな
裸の女子に過ぎん…
なのにまだ抗うつもりか

…とう、じえん…
だっ…ううんっ…



な、なんだ
これ…♡♡

めのまえが…あたまが…
ふわふわになつてえ…♡♡♡



…あ…？

くちゅっ♡♡



— 良い。
その気高き誇りも
含めて美しい

私の糧となるのに
相応しい女だ…♪

どん

意志に関係なく、魔力が
込められた淫鬼の言葉は
女の身を虜にし、甘い甘い
鎖に硬く閉じ込めていく

まずい
これは……!!!

は、あつあアアアアアン……♡♡

まじろん

乳房の、胸の奥から
堪えようのない衝動と切なさが
湧き上がってくるっ……♡

ドクン

目の前の淫鬼に服従したい
目の前の淫鬼に奉仕したい
目の前の淫鬼と交わりたい……♡♡♡

目の前の淫鬼に
服従したい
目の前の淫鬼に
奉仕したい

目の前の淫鬼と
交わりたい……♡♡♡

ぽたぽた

今すぐ土下座して
泣き叫びながら
『あなたをまじろ
ん奉仕させて
ください♡♡』
と懇願して
しまいましたくなる

女、股を開けろ
この我自ら手にかけてやろう

ひゃ…ひゃん…♡♡♡
おおせのまじろん……♡♡♡

みみ
はあ

まじろん



…ふあああああアア
あああッ♡♡♡♡



『抱きしめられた』

たった、それだけのことで
この身体は淫鬼の抱擁に歓喜し
——イッてしまった♡

淫鬼の首領の全身から発せられる
濃厚で甘すぎる雄のフェロモンに包まれて
——脳がとろける…♡



ククク…
今まで手間を
かけさせられた礼だ

貴様は言葉も解さぬ
最下級の低級淫鬼へと
墮としてやろう♡♡



ふあ♡
くちゅ
くちゅ
しゅー



あ♡
あ♡



なんとかその手を
振り払おうとするが…
まるで力が入らない

それどころか
その手に自分の乳房を
押し付けるかのよう…
悶える身体を淫りにくねりせる
ことしかできない…♡

まさか…
このおかた…♡
ちが、コイツ…

わた、ぼくを、
淫鬼に……♡

抗うな
受け入れろ

雌としての
本能に従うのだ





お前は
我が眷属となり

永遠の墮落と
悦楽の時を
享受するのだ

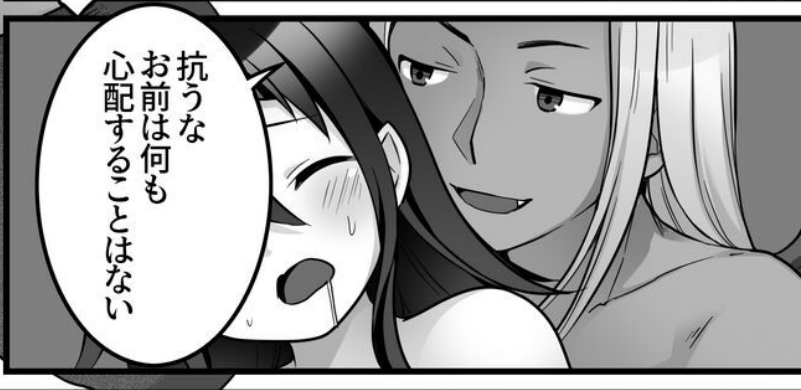


た、たえろ...♡

でも、きもちよ...♡

もお、こんなに
きもちいいなら...♡♡

ちちがつ...



抗うな
お前は何も
心配することはない



淫鬼の首領...さまの
甘いお声が脳の...
理性の奥深くまでを
どろりと侵食...♡♡♡

けんぞく...
あるじら...♡

えいえん...♡♡

っ...
だ、だめ...

わたしは...

もはや理性で
無事な所などない
その全てが
『強大なオスに愛される
メスとしての幸せ』
に侵されて
しまっていた...♡



ちゅっ♡♡♡

ひっ...♡

ちゅっ...♡



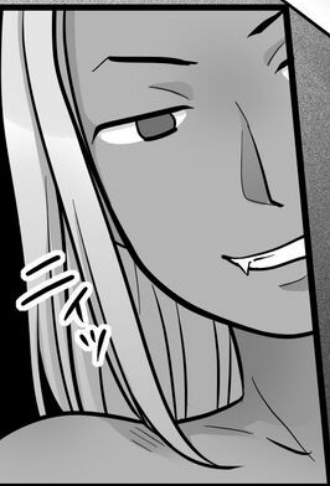
ムンッ
ムンッ
ちゅー
かっ
ひゃああひゃあ……♡♡♡♡



どれだけ抗おうが
無駄だ
どれほど強靱で高潔な
精神を持っていようが
雌の肉体である以上
淫鬼の王である我から
逃れられるものか



ひょ
わっ



その胸が
絶望に染まっていった

自分は今まで戦ってきた
どんな魔物よりも恐怖を覚え

『それ』が視界に入った途端



ヒッ

なのに
何故だろうか

その淫鬼の
おぞましく恐ろしい
巨大な肉竿から

目が離せない…♡



パリン

♡

まるで初恋を経験した
初心な生娘のように
心臓が高鳴って仕方ない…♡



♪

♡♡

♡

これでキサマの魂は
丸裸となった…

みん

♡

♡

♡

♡

あとは
お前の魂を我が色に
染め上げるのみだ♪





すちゅっ♡
すちゅっ♡

ぽちゅっ♡
ぽちゅっ♡

ほちゅ♡
ほちゅ♡

ん♡

ほちゅ♡

すちゅ♡



墮とされ
穢されて

その心に宿る誇りまでもを
奪われ穢されていく♡♡♡

ほちゅ♡
ほちゅ♡

ぽちゅっ♡

すちゅっ♡

ん♡

これならさぞ
人間の雄たちから
精を貪る淫鬼と
なるだろうな♡

すちゅっ♡
すちゅっ♡



すぢゅ すぢゅ
あ〜 あ〜

フ

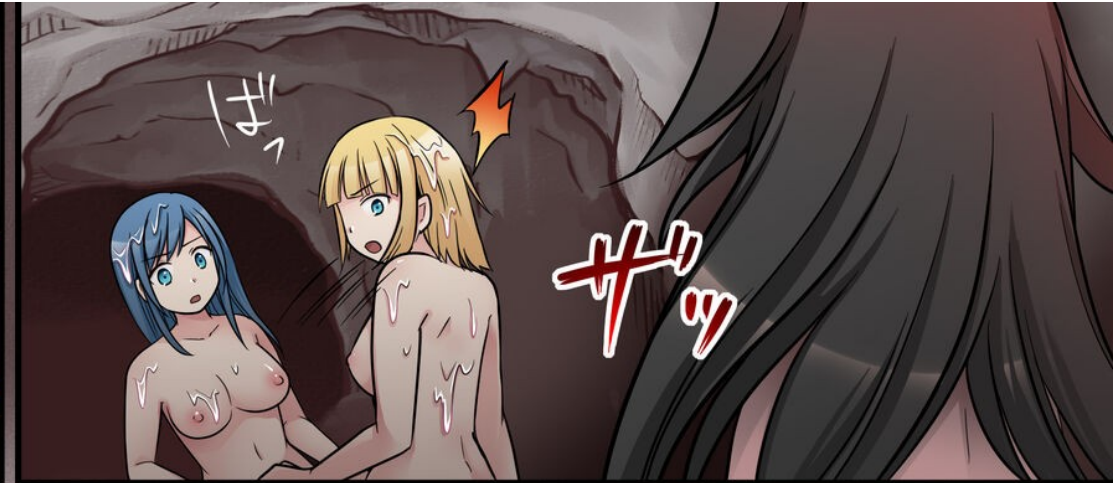
フ
フ
フ
フ
フ

あ〜 あ〜
あ〜

—— 人生で初めて味わう
膣内で熱い精液が噴き出される
熱く激しく甘い感覚…♡♡♡

ガッ
ガッ





ニンゲン…
ナカマニ…フヤス…♡

END...